分娩期における初産婦の出産に取り組もうとする思いとその思いに影響を及ぼす体験

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2021-05-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 金粕, 仁美
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fpu.repo.nii.ac.jp/records/24

［研究論文］

分娩期における初産婦の出産に取り組もうとする思いとその思いに影響を及ぼす体験

金粕　仁美

Ⅰ　緒言

日本では約99％が病院・診療所で出産し[1)]、医療施設での出産が一般化した。自然な出産においても医療技術の介入がなされるようになり、出産の医療化とも言われている[2)]。このような現状の中、「健やか親子21」（第２次）では、妊娠・出産に対して満足している者の割合の増加という目標が設定されており[3)]、女性が自身の出産体験に満足できるような医療従事者の関わりが求められるようになってきている。

このように出産に対する満足感が重要視されるようになった背景には、出産体験に対する認識が出産後の母子関係に影響を与えることが要因の一つにあると考えられる[4,5)]。出産に対する満足感が高い女性は、自尊感情[6,7)]、児への愛着[8)]、育児生活肯定感[7,9)]が高く、逆に満足感が低い女性は産後うつ傾向が強いことが報告されている[6,10-12)]。また、出産の満足感を高める要因についてはいくつかの報告がみられ[13-16)]、その一つとして、中重ら[17)]は、出産における女性の主体的な取り組みを挙げている。また、出産中の自由な姿勢の選択が女性の主体性を高め、満足な出産体験につながることも報告されている[18)]。

そこで、女性を対象とした出産に関する先行研究を概観すると、助産院における出産体験に関するものや[18-20)]、出産に満足している女性の出産中の思い[21)]、胎児娩出感を持った女性の体験[22)]、出産中のコントロール感に焦点を当てた研究などがみられる[23-25)]。このように、出産に関して様々な視点から調査されているが、出産中の体験を明らかにしたものがほとんどであり、女性自身の出産に取り組もうとする思いを明らかにしたものはみられない。出産に取り組もうとする思いとその思いに影響を及ぼす体験を明らかにすることによって、出産における女性の主体性を高める看護について示唆を得ることができると考える。

そこで本研究では、経腟自然分娩で出産した女性を対象とし、出産に取り組もうとする思いと、その思いに影響を及ぼす体験を明らかにすることを目的とする。経産婦は以前の出産体験が影響すると言われていることから[26)]、本研究では初産婦のみを対象とした。

受付日　2020.11.20
受理日　2020.12.28
所　属　看護福祉学部

Ⅱ　用語の定義

出産に取り組もうとする思い：「自身の出産のために自ら行動しようとする産婦の思い」

Ⅲ　研究方法

１．研究デザイン

本研究は、現象をありのままに記述する質的記述的研究を用いた[27]。

２．研究協力者

2015年６月～10月に、経膣自然分娩で出産した初産婦10名とした。陣痛促進剤を使用した者や吸引分娩となった者は対象から除外した。

３．データの収集方法

調査の協力が得られた産科病院と診療所の２施設の看護師長等から、妥当と思われる協力者の紹介を受けた。半構成的面接法により、妊娠末期から子どもの誕生までの経過の流れで、協力者の出産に取り組もうとする思いや感情、その時の体験などを中心にインタビューした。面接場所は病室等の個室とし、面接内容は協力者の同意を得て録音した。

４．データ分析方法

研究協力者ごとに逐語録を作成し、逐語録から出産に取り組もうとする思いやその思いに影響を及ぼす体験に関連していると思われる部分を、文脈を考慮しながら語りの意味内容を変えないようにコードとして抽出した。内容により共通性や関連性のあるコードを比較、分類しながらサブカテゴリーを抽出した。更にサブカテゴリーの関係性や類似性、相違性などにより比較分類しカテゴリーを抽出した。データやコードに戻り、カテゴリー内やカテゴリー間の比較、再分類を繰り返し、出産経過に沿って構造化した。また、協力者のうち３名に対してはメールでインタビュー内容の確認を行った。分析結果は、母性看護学領域の研究者複数名で検討した。

５．倫理的配慮

福井県立大学研究等における人権擁護・倫理委員会の承認を受けてから実施した（承認番号2015007号）。研究協力者には、研究の内容と方法・倫理的配慮について書面と口頭で説明した後、書面での同意を得た。倫理的配慮としては、研究協力の任意性、途中辞退の権利、同意の下でのインタビュー内容の録音、プライバシーの保護、データの厳重な管理、研究結果の公開等について説明した。インタビューの実施日や実施時間は協力者と調整し、インタビュー中は協力者の表情や言動を観察して適宜声かけをおこなった。

Ⅳ　結果

１．研究協力者の概要

研究の協力依頼は11名に行った。協力者は24歳～36歳（平均30.4歳）の初産婦10名であった。入院の契機は陣痛発来が６名、前期破水が４名であり、10名とも正期産であった。分娩所要時間は７時間00分～20時間６分であった。主に出産に付き添った家族は、夫が５名、実母が５名であった。インタビュー実施日は、産褥１日目が６名、産褥２日目が１名、産褥３日目が２名、産褥４日目が１名であり、時間は18～53分（平均32.6分）であった。

２．初産婦の出産に取り組もうとする思いとその思いに影響を及ぼす体験

１）抽出されたカテゴリーの概要

分析の結果、初産婦の出産に取り組もうとする思いとして３つのカテゴリーが、その思いに影響を及ぼす体験としては７つのカテゴリーが抽出された。カテゴリーおよびサブカテゴリーを表１、２に、カテゴリーとサブカテゴリーの関連を図１に示す。

以下、カテゴリーを【　】、サブカテゴリーを〈　〉、協力者の語りを「斜体」、補足を（　）、協力者をA～Jで示す。

表１　初産婦の出産に取り組もうとする思い

カテゴリー	サブカテゴリー
安産になるように自分ができることを取り入れようと思う	安産になるように妊娠中からできることを取り入れようと思う 安産になるように出産中にできることを取り入れようと思う
出産に対する前向きな気持ちを保とうとする	自分なりの目標を決めて前向きな気持ちを保とうとする 他の人も出産を乗り越えているから大丈夫と言い聞かせる
出産の終わりが見えて全力を出し切ろうと思う	出産の終わりが見えて気持ちが前向きになる もうすぐ生まれると感じ全力を出し切ろうと思う

表２　初産婦の出産に取り組もうとする思いに影響を及ぼす体験

カテゴリー	サブカテゴリー
徐々に強くなる痛みの変化を感じる	出産の前兆に気づく 徐々に強くなる陣痛の変化を感じる いきみたい感覚がでてくる 耐えられないと感じるぐらいの強い痛みを感じる
自分のイメージと違うと感じる	自分のイメージと痛みが違うと感じる 自分のイメージと出産の経過が違うと感じる
出産の終わりが見えず自分の限界を感じる	出産の終わりが見えず気持ちが後ろ向きになる 自分の限界を感じる
おなかの中の赤ちゃんの頑張りを感じる	おなかの中の赤ちゃんの様子を想像する 赤ちゃんの頑張りを感じる
周囲の人に支えられていると感じる	付き添う家族に支えられていると感じる 医師や助産師の言葉にはげまされる
環境の変化によって出産の進行を感じる	分娩室への移動によって全力が出せると感じる 出産の準備によって出産の終わりが近いと感じる
赤ちゃんが生まれてくる感覚を感じる	赤ちゃんが出てくる感覚を感じる 赤ちゃんが生まれる瞬間を感じる

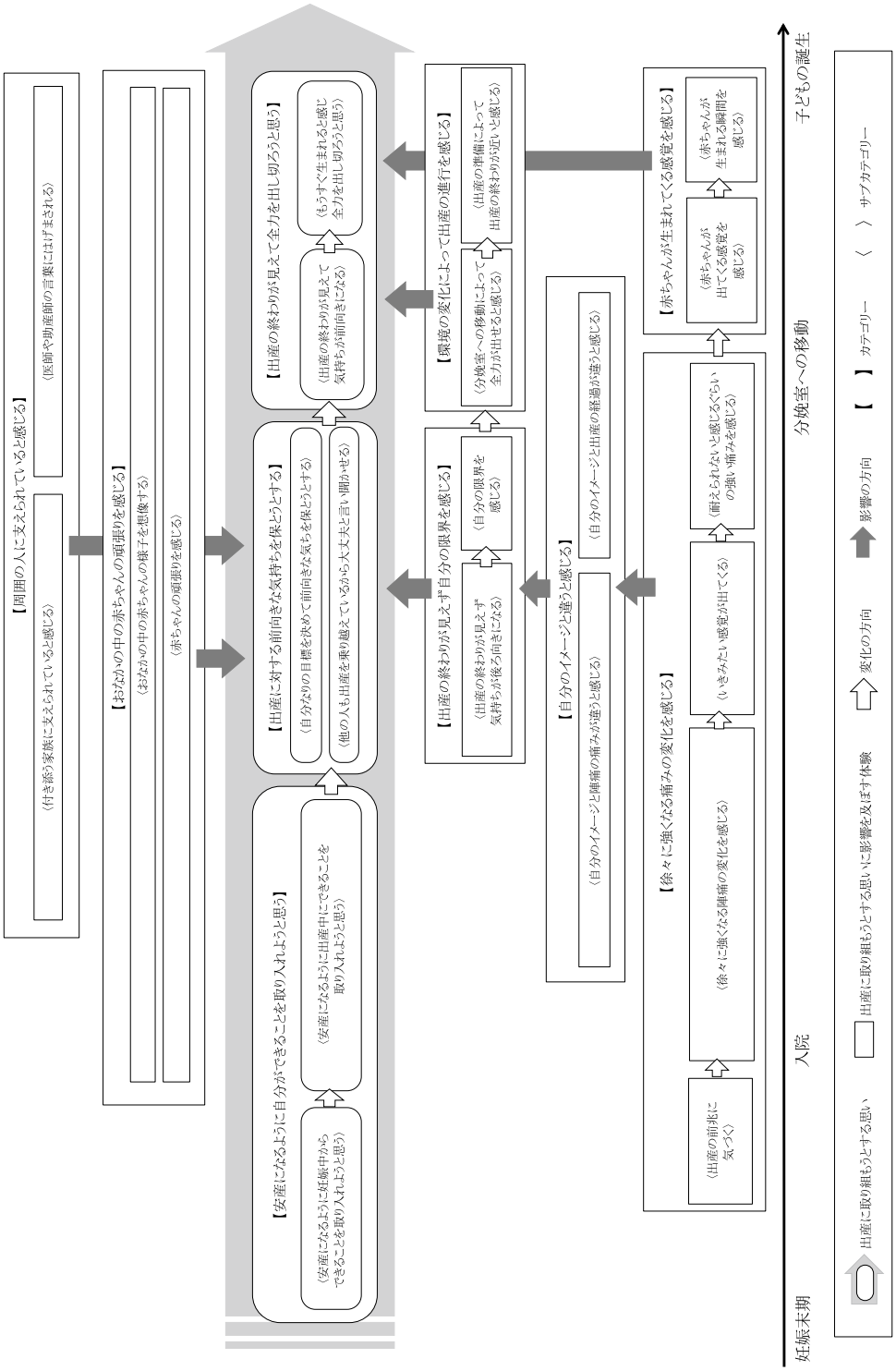

図 1　初産婦の出産に取り組もうとする思いとその思いに影響を及ぼす体験のカテゴリー関連図

2）ストーリーライン

初産婦は、妊娠中から【安産になるように自分ができることを取り入れようと思い】、分娩期にもその思いは継続していた。しかし、【徐々に強くなる痛みの変化を感じる】ようになると、初産婦は痛みや経過が【自分のイメージと違うと感じる】ようになり、【出産の終わりが見えず自分の限界を感じ】ていた。そのような中、家族や助産師などといった【周囲の人に支えられていると感じ】たり、【おなかの中の赤ちゃんの頑張りを感じ】たりしながら、初産婦は【出産に対する前向きな気持ちを保とうとして】いた。

分娩室への移動やいきめるようになることによって、初産婦は【環境の変化によって出産の進行を感じる】ようになり、子どもが産道を下降してくる感覚などといった【赤ちゃんが生まれてくる感覚を感じ】ていた。これらの変化により、初産婦は【出産の終わりが見えて全力を出し切ろうと思い】、子どもの誕生を迎えていた。

３．初産婦の出産に取り組もうとする思い

１）【安産になるように自分ができることを取り入れようと思う】

このカテゴリーは〈安産になるように妊娠中からできることを取り入れようと思う〉と、〈安産になるように出産中にできることを取り入れようと思う〉の２つのサブカテゴリーから構成される。多くの初産婦は、〈安産になるように妊娠中からできることを取り入れようと思い〉、分娩が開始した後にも〈安産になるように出産中にできることを取り入れようと思う〉気持ちがみられた。

(1)〈安産になるように妊娠中からできることを取り入れようと思う〉

多くの初産婦は〈安産になるように妊娠中からできることを取り入れようと思い〉、助産師などの助言によって、出産のイメージトレーニングや階段昇降、散歩などの行動を取り入れていた。

「母親教室やってるって聞いて。助産師さんの方が、イメージトレーニングしとくと、(出産が)その通りになるからって言われて。(中略)それからちょっと、イメージトレーニングして。」(A)

「デパートの地下から７階までをなんか６往復とか、そんなんをずっとして。(中略)臨月になったら何してても(おなかは)張るし動かんとあかんって思って、もう張ったって動いてた感じです。苦しみたくなかったから、こんなんで安産になるんならちょっと遅いかもしれんけどやるってなって。」(E)

「なるべく（お産が）軽くなるようにと思ってたんで。まぁできる限り早く産みたい

なって思ってたけど、(診察で)『まだまだそう。』って言われたから、『動いてください。』って言われて。で、その診察があった次の日に、動いて歩いたらもう(陣痛が)始まった感じで。(I)」

(2)〈安産になるように出産中にできることを取り入れようと思う〉

出産となり徐々に強くなる痛みを感じながらも、多くの初産婦は〈安産になるように出産中にできることを取り入れようと思い〉、助産師の勧める行動を自身のできる範囲で取り入れていた。

「なんかもうご飯を食べる余裕はなくって。で、主人がなんかゼリーとか買ってきてくれてたんで。ゼリーみたいのとかだけ頑張って食べて。(中略)『エネルギーがないと、陣痛が遠のいたりとかするよ。』って、その時に助産師さんに言われたので。あぁじゃあなんか食べないとなって。」(H)

「(助産師が)お風呂つかっても気持ちいいって。『それやった方がいいよ。』って言ってたし、やらないよりかは。(中略)確かに痛いし、どちらかと言うと(お風呂に)入りたくないっていう気持ちはあったんですけど。でも、やっぱり入ることで、いい方向に行くんだったら、ちょっとでもそれをして、お産早く終わってっていうふうな。」(B)

2)【出産に対する前向きな気持ちを保とうとする】

このカテゴリーは、〈自分なりの目標を決めて前向きな気持ちを保とうとする〉と〈他の人も出産を乗り越えているから大丈夫と言い聞かせる〉の2つのサブカテゴリーから構成される。初産婦の多くは、〈自分なりの目標を決めて前向きな気持ちを保とうとし〉たり、〈他の人も出産を乗り越えているから大丈夫と言い聞かせ〉たりすることで、出産に対する前向きな気持ちを保とうとしていた。

(1)〈自分なりの目標を決めて前向きな気持ちを保とうとする〉

陣痛の痛みが増すことにより自分の限界を感じ始めると、何人かの初産婦は〈自分なりの目標を決めて前向きな気持ちを保とうとして〉いた。

「あと3回叫んだら終わりかなとか、思ったりとか。勝手に、これぐらいが自分の限度かなって思ったり。あと3回で終わりやーとか思いながら、叫んでたりとか。そう思わないと、痛すぎたので。」(D)

「(子宮口が)まだひらいてないって言われるのが怖くって。で、自分の中でもうひ

らいたやろうって思うまで待って。(助産師に)『まだ。』って言われたら精神的に崩れそうやったから、もういけるやろうって、自分の中で確信持ってから内診してもらいました。」(G)

(2)〈他の人も出産を乗り越えているから大丈夫と言い聞かせる〉

強い産痛を感じる中で、〈他の人も出産を乗り越えているから大丈夫と言い聞かせる〉ことで、肯定的な気持ちを保とうとしていた初産婦もいた。

「でも、みんなこれ(陣痛)乗り越えてるんだなーって、みんなのことも考えました。こんなの乗り越えてるんだなって。だから大丈夫だろうなって、と言い聞かせて。」(A)

3)【出産の終わりが見えて全力を出し切ろうと思う】

このカテゴリーは〈出産の終わりが見えて気持ちが前向きになる〉と〈もうすぐ生まれると感じ全力を出し切ろうと思う〉の2つのサブカテゴリーから構成される。多くの初産婦は、〈出産の終わりが見えて気持ちが前向きになり〉、〈もうすぐ生まれると感じ全力を出し切ろうと思って〉いた。

(1)〈出産の終わりが見えて気持ちが前向きになる〉

初産婦は、分娩室への移動やいきめるようになること、子どもが産道を下降してくる感覚を感じることなどによって〈出産の終わりが見えて気持ちが前向きになって〉いた。

「(子宮口が)全開って言われた時、よっしゃーって思って。いきんだ時は痛いんですよ全開したって。なんか皮が張ってるっていうのがわかる。でもこれ伸びていく皮やから、張ってても伸びるか切ってもらえるか切れるかするわって思ったら、これ絶対産めるわって、何回かやってたらって思った。」(E)

「(子どもの頭が)挟まったままやなっていうのがわかったし。なんかやっぱり最初に(出産の)情報を持っといてよかったなって思いました。あともうちょっとやって自分でも思えたし。あともうちょっとかなって思って、楽でしたね、気持ち的には。痛みはすごいありましたけど。痛かったですけど、でも先のない痛みより全然ましでしたね。」(G)

(2)〈もうすぐ生まれると感じ全力を出し切ろうと思う〉

子どもの頭が見えているという助産師の声かけや、出産の準備をしている様子などから、初

産婦は子どもが〈もうすぐ生まれると感じ全力を出し切ろうと思う〉ようになっていた。

「『もう頭見えてるからね。』とか『頭出てきてるよ。』とかっていう声で、更に最後の力を振り絞る感じでした。頭がつかえてるってことは、あともう少しで息ができるっていうか外に出られるっていうのもあるし。『頭が出たよ。』って言われたら、あと最後体が出るだけだっていう。」(F)

「最後みんな準備しだして。あぁこれは生まれるっていう実感があったんで。(中略)準備しだしたら目に見えてもういよいよだなっていう感じで思って。じゃあ、もう最後、頑張るかみたいな、そんな感じでした。」(C)

４．初産婦の出産に取り組もうとする思いに影響を及ぼす体験

１）【徐々に強くなる痛みの変化を感じる】

このカテゴリーは、〈出産の前兆に気づく〉、〈徐々に強くなる陣痛の変化を感じる〉、〈いきみたい感覚がでてくる〉、〈耐えられないと感じるぐらいの強い痛みを感じる〉の４つのサブカテゴリーから構成される。初産婦は、〈出産の前兆に気づく〉、〈徐々に強くなる陣痛の変化を感じる〉、〈いきみたい感覚がでてくる〉、〈耐えられないと感じるぐらいの強い痛みを感じる〉の順に、徐々に強くなる痛みの変化を感じていた。

(1)〈出産の前兆に気づく〉

初産婦は、前駆陣痛などの〈出産の前兆に気づき〉、自宅で様子をみながら入院の準備をしたり、病院に電話をして看護者から助言を得たりしていた。

「なんか、おしるしってあるっていいますよね。あれが夜中の２時ぐらいに、なんかちょっとトイレ行こうと思っていったらきてて。それまで全く痛みとかなかったんですけど、なんか生理痛みたいな痛みがあって。これってもしかして陣痛の始まりなんかなって。」(B)

「夜中にちょっとおなかが痛くなってきて。で、ちょうど予定日だったんですよね。で、もしかしたらと思って、測り始めたら定期的やったんで。あっこれは明日の朝ご飯が作れないかもって思って、台所にたったら、ちょろちょろちょろってお水みたいなのが出ちゃって。これがいわゆる破水かなって思って。(中略)病院の方に確かめてもらったら、『多分、破水かもしれないから、とりあえず入院の準備してきてくれ。』って言われて。」(F)

(2)〈徐々に強くなる陣痛の変化を感じる〉

全ての初産婦は、出産の進行するにつれて〈徐々に強くなる陣痛の変化を感じて〉いた。

「痛みは時間ごとにきつくなっていく。（子宮口）4、5、6（cm）はふーふーでいけた。6、7、8（cm）ぐらいからがしんどくて。9、10（cm）とかは完璧にもう覚えていないかな。もう、ふーふーふーふー言い続けて。」(D)

「しゃべれる感じで友達とメールもしてたし。でもだんだんメールする余裕もなくなって。（中略）で、横になりたくなって。だんだん痛みが強くなっていった感じかな。急ではなかった。ほんとに段々で。」(G)

(3)〈いきみたい感覚がでてくる〉

ほとんどの初産婦は、自然に力が入る感覚や赤ちゃんが下に降りてくる感覚などを感じ、〈いきみたい感覚がでてくる〉と感じていた。

「なんか、（病院に）来たときは全然いきみたいっていうのがわからんくって。痛いから、力も入れたくないし。いきみたいとかはないわ私って思ってたんやけど。あの陣痛室に入って（子宮口が）5～6cmってわかってからかな。力が入ってしまうんですよ。（中略）もう無理ってなって。もう力を入れすぎて。あの吐けへんくって呼吸が。もう力しか入らへんかったから。毎回いきんでて。」(E)

「もう、このお部屋（病室）に戻って来たころには、なんか出ちゃいそうなかんじでしたね。もう、陣痛が2～3分おきで。もう出したいっていうようなかんじで。（それまでは）なんか痛いなって感じだったんですけど。ここのお部屋に戻ってきた時は、もうなんか出ちゃいそうみたいなかんじで。」(C)

「いきんだらあかんから、とは思いながら。でもいきんでましたね。（助産師に）『おしり力抜いてー。』っとか言われてて。」(D)

(4)〈耐えられないと感じるぐらいの強い痛みを感じる〉

初産婦によって表現は様々だが、痛みに対して何をしても無理だと感じるなど、〈耐えられないと感じるぐらいの強い痛みを感じ〉ていた。

「夜中あたりぐらいから、すごい耐えられない陣痛が始まって。（中略）もうとりあえず痛いっていう。思っていたよりもだいぶ痛い。」(A)

「分娩室に入る1時間前っていうか約前後2時間が、そののたうちまわるぐらい痛

いっていう。２時間かって思うんですけど、その時は結構長く感じて。」(B)

「なんか、もう結構痛みも増してたし、親も結構、『連絡したほうがいいんちゃうか。ナースコール押す？』みたいな感じで。もう、ほんまにちょっと自分でも限界近づいてたから。（中略）部屋に入ってから、ずっともがいてる感じやったんで。（中略）で、ほんまに強いのは、さすってもらおうが、楽な体勢とろうが、呼吸法をやろうが、何しようが無理で。」(I)

２）【自分のイメージと違うと感じる】

このカテゴリーは、〈自分のイメージと痛みが違うと感じる〉、〈自分のイメージと出産の経過が違うと感じる〉の２つのサブカテゴリーから構成される。初産婦の多くは、〈自分のイメージと痛みが違うと感じ〉たり、〈自分のイメージと出産の経過が違うと感じ〉たりしていた。

(1)〈自分のイメージと痛みが違うと感じる〉

初産婦の多くは、妊娠中から出産をイメージしていたが、前駆陣痛や産痛が想像以上に強く、〈自分のイメージと痛みが違うと感じ〉ていた。

「生まれる直前に痛みがもっときつくなって生まれるぐらいの感じでしか思ってなかったけど。（中略）これが前駆陣痛なの？みたいな。これ本陣痛に含めてほしいって思うぐらい。結構それなりに痛かったから。」(I)

「（陣痛が）５分間隔とかになったら（病院に）行くじゃないですか。その時の痛み、プラスアルファぐらいで産むんやって思ってたから。めっちゃ痛い時に行ったから、これで産めるって思ってたけど。更に、更に更に（痛みの程度が）上がったっていう。」(E)

(2)〈自分のイメージと出産の経過が違うと感じる〉

初産婦によって感じる時期は様々であったが、出産前のイメージより実際の経過が長く、〈自分のイメージと出産の経過が違うと感じ〉ていた。

「なんかその、痛いんですけど、（助産師に）『まだ子宮口がひらかない。』って言われた時に。いや、私がおかしいのかなって思って。『あと６時間。まだまだ産まれないね。』とかって、陣痛がすごい時に言われた時も、これがまだまだ続くの？って。」(A)

「分娩台にのぼっていきみだしたら、結構すぐ、どんどん生まれてくるのかなっとか思ってたんですけど。結構ここが長いんやなって思いました。（中略）なんか何回いきんだら出てくるんだろうみたいな。」(H)

3）【出産の終わりが見えず自分の限界を感じる】

このカテゴリーは、〈出産の終わりが見えず気持ちが後ろ向きになる〉と〈自分の限界を感じる〉の２つのサブカテゴリーから構成される。多くの初産婦は〈出産の終わりが見えず気持ちが後ろ向きになり〉、〈自分の限界を感じる〉初産婦もいた。

(1)〈出産の終わりが見えず気持ちが後ろ向きになる〉

多くの初産婦が、程度は異なるものの、陣痛の痛みが増強することや時間が経過することによって出産に対する不安を感じ、〈出産の終わりが見えず気持ちが後ろ向きになる〉状態となっていた。

「まだ余裕がある時は、うれしさとかドキドキの方が勝ってたんですけど。痛みが強くなるにつれて、ちょっとずつ、こう、なんて言ったらいいんでしょうかね。不安じゃないけど。なんか、喜んでもいられないなみたいな。（中略）その、先が見えない感じもあったし。その、痛みがどのぐらい続くかとか、分娩がうまくいくのかとかいうのもあったし。」（F）

「やっぱり、終わりが見えないことほどしんどいものはない。（中略）もう痛すぎて、いつ終わるんかわからんし。もう、なんか死にたいっていうとたいそうですけど、すごいしんどいし、どうしようみたいな。ちょっともう、泣いてたりとかして。前向きなあれじゃなくて。」（B）

(2)〈自分の限界を感じる〉

何人かの初産婦は、増していく産痛や時間の経過によって、これ以上産痛に耐えられないと感じるなど、〈自分の限界を感じる〉ようになっていた。

「結構自分の中では限界に近くて。でもなんか内診してもらっても、まだって感じやって。痛みも耐えれんし。あと何時間も待てないみたいな感じで。限界。もうすべてに限界で。」（I）

「（助産師に）『今は（息を）吐かなあかん。』って言われてるけど、もうそんなん聞こえてなくって。（中略）もう聞こえない。目見てても焦点が定まらないから、もやもやってしてて見えないし。体は震えてるってわかるし。これはもう耐えられないって。」（E）

4）【おなかの中の赤ちゃんの頑張りを感じる】

このカテゴリーは、〈おなかの中の赤ちゃんの様子を想像する〉と〈赤ちゃんの頑張りを感

じる〉の２つのサブカテゴリーから構成される。〈おなかの中の赤ちゃんの様子を想像し〉たり、〈赤ちゃんの頑張りを感じ〉たりすることで、初産婦は出産に対する前向きな気持ちを高めていた。

(1)〈おなかの中の赤ちゃんの様子を想像する〉

初産婦によって想像のしかたは様々だが、多くの初産婦が出産中に〈おなかの中の赤ちゃんの様子を想像して〉いた。

「陣痛の痛みとかも、本当は子宮が収縮する痛みなんでしょうけど、自分の頭の中では赤ちゃんが下がっているイメージっていうか、よいしょよいしょってなってるイメージで捉えてたので。だから頑張れーみたいな感じもありましたし。だからかな、痛くてもまだ途中だと思えたのは。」(F)

「破水結構すると、結構な量が出たので、どんどん酸素がなくなるのかなとか思って。で、このままいくと帝王切開になったりするのかなとか思って。じゃあ、(子宮口を）早く開いてあげた方がいいのかなって思って。意外と、自分がしんどいっていうのがあんまりなくて。まあ痛いなーっていうのがあったんですけど。こっち(赤ちゃん)の方が、体が小さいんで、あんまり時間をかけるとまずいなって。(中略）その、生まれるまでの間、ずーっと。今どの辺にいるのかなーとか思いながら。」(H)

(2)〈赤ちゃんの頑張りを感じる〉

何人かの初産婦は、おなかの〈赤ちゃんの頑張りを感じ〉、自分も頑張って産まなければと前向きな気持ちを高めていた。

「赤ちゃんを主役に考えると、なんか見知らぬ世界に、頭こうくぐって降りてくるんやから、相当それも怖いやろうししんどいやろうし。きっと茨の道みたいな感じやから、会えるためには私もしっかりしなって思おうって。一応それはあったんですよ。」(B)

「分娩室に行くまで。赤ちゃんのことですかね。もうすぐ会えるっていうのが一番あったかな。赤ちゃんも頑張ってるし頑張らなきゃって。」(J)

5）【周囲の人に支えられていると感じる】

このカテゴリーは、〈付き添う家族に支えられていると感じる〉と〈医師や助産師の言葉にはげまされる〉の２つのサブカテゴリーから構成される。初産婦は、〈付き添う家族に支えられていると感じ〉たり、〈医師や助産師の言葉にはげまされ〉ていた。

(1)〈付き添う家族に支えられていると感じる〉

徐々に強くなる痛みを感じる中で、初産婦の多くは、家族の前向きな励ましや援助に感謝したり、家族の存在によって安心感を感じたりするなど、〈付き添う家族に支えられていると感じ〉ていた。

「落ち着けるというか、安心感がすごいあったので。そうそうNSTつけてたからいつ陣痛来るのか母が大体わかってたので。『あぁ来たー。』ってそれでもわかるから。あぁじゃあ今から痛くなるんやとか思ったり。」(D)

「１人じゃ無理でしたね、さすってくれたりしてくれてたので。多分もういてくれてるだけで、実の母の方だったので。そのさすり方とかじゃなくって、多分いてくれてるだけで安心してたと思いますね。(中略)『こんなもんじゃない。もっと産むとき痛いんだから。』って(母親が)後ろで言ってはりました。でも、あっそっか、これからもっと痛くなる、頑張らなきゃーって思いが。もっと痛いのかー出す時は、ってドキドキしながら。その点においては母のほうが良かったのかもしれない、経験者やから。」(J)

「なんか感謝したなと思って。ほんまありがとうみたいな。多分、主人もどうしていいかわからないし。(私が)すごい痛がってるから、声掛けするのにも気兼ねあったかもしれないですけど。でも、(夫が)『もうちょっとやし。』とか、『いい具合で順調にいってるよ。』っていうのを言ってくれてて。」(B)

(2)〈医師や助産師の言葉に励まされる〉

特に分娩室に移動してからの時期においては、医師や助産師の言葉がけに励まされたり、具体的な説明に安心したりするなど、初産婦は〈医師や助産師の言葉に励まされる〉と感じていた。

「助産師さん、メインで２人いらっしゃったんですけど。すごいなんかもっていき方上手っていうか、もうほんとすごい励ましてくださって。『もうこれはこうした方がいいよ。』、『このままいっちゃう方が早く産まれるよ。』とか、すごいいろいろリードしてくださって。」(C)

「(赤ちゃんの頭が)挟まったまんまからは、知ってる医師の先生がきてもらえて。(中略)『あと３回やって。』言われて安心したし、ほんとに具体的な数字言われて、あと３回頑張ったらいけるっと思って。安心しましたねすんごい。」(G)

６)【環境の変化によって出産の進行を感じる】

このカテゴリーは、〈分娩室への移動によって全力が出せると感じる〉と〈出産の準備によっ

て出産の終わりが近いと感じる〉の２つのサブカテゴリーから構成される。〈分娩室への移動によって全力が出せると感じ〉たり、〈出産の準備によって出産の終わりが近いと感じ〉たりするなど、初産婦は環境の変化によって出産の進行を感じていた。

(1)〈分娩室への移動によって全力が出せると感じる〉

何人かの初産婦は、分娩室に移動していきめるようになることを進行の目安としており、〈分娩室への移動によって全力が出せると感じて〉いた。

「(分娩室に）入ってからは、もう踏ん張るだけやーと思って。必死に力入れてましたね。もうすっきりしましたね、めちゃくちゃ。」(J)

「分娩室入るとゴールテープ切らなきゃいけないから、全速力になるっていうか。(中略）もう残った全力を出し切るぞみたいな感覚になったんだと思うんです。」(F)

(2)〈出産の準備によって出産の終わりが近いと感じる〉

分娩室に移動してからは、助産師や医師による〈出産の準備によって出産の終わりが近いと感じる〉初産婦もいた。

「(助産師が）『もう見えてる。見えてる。』みたいなかんじで言ってたんで、それが励ましなのかわかんなかったですけど。でも、最後みんな、準備しだして。あぁこれは生まれるっていう実感があったんで。」(C)

7）【赤ちゃんが生まれてくる感覚を感じる】

このカテゴリーは、〈赤ちゃんが出てくる感覚を感じる〉と〈赤ちゃんが生まれる瞬間を感じる〉の２つのサブカテゴリーから構成される。多くの初産婦は、〈赤ちゃんが出てくる感覚を感じ〉、〈赤ちゃんが生まれる瞬間を感じ〉ていた。

(1)〈赤ちゃんが出てくる感覚を感じる〉

多くの初産婦は、いきむことで少しずつ子どもが下降する感覚や、頭がみえる排臨の状態を感じるなど、〈赤ちゃんが出てくる感覚を感じ〉ていた。

「もう分娩台に上ってからぐらいですかね。なんかやっぱりすごい。なんかやっぱり、どんどん下がひらいていってるのが感覚でわかって。あぁ（赤ちゃんが）出てくるんだなって思ったぐらい。それまでは痛いのに耐えてるだけで、まだ全然実感がなかっ

た。」(H)

「1回1回のいきみで、叫ばないとしんどい、最初から。で、やっと（赤ちゃんの）頭が見えてきて。（分娩室に入ってから）頭が見えるまでに1時間ぐらいかかって。で、すっごい頑張っていきんでもちょっとしかすすまなくて。休んだらちょっと減ってみたいな。でも、ちょっとずつちょっとずつひらいてるのが、自分の感覚でもわかったし。」(G)

「いきんでたら、あっこれが出てる感覚なんやっていうのがわかったので。赤ちゃんっていうか、顔が出てきてるんやなって、頭出てきてるんやなって。広がってるってのがわかったので。」(D)

(2)〈赤ちゃんが生まれる瞬間を感じる〉

初産婦によって表現は様々であったが、多くの初産婦が〈赤ちゃんが生まれる瞬間を感じ〉ていた。

「もう、あの出た瞬間かな、印象的なのは。むちゃすっきりしたんです。もうそれしか記憶にない。どーんって感じやって。やっと会えたっていう気持ちが強かったですかね。すっごいうれしかったですかね。」(J)

「やっぱり出産の、陣痛の痛みとかからの出た瞬間の感触とか、なんか、おなかから（赤ちゃんが）出ていく感覚がわかって。（中略）やっぱり自分の中にいてちょっとずつ大きくなった赤ちゃんが外の世界に出て、無事出てきたっていうのがもう感激で。」(B)

V　考察

1．初産婦の出産に取り組もうとする思いの変化

分娩期における初産婦の出産に取り組もうとする思いは、【安産になるように自分ができることを取り入れようと思う】、【出産に対する前向きな気持ちを保とうとする】、【出産の終わりが見えて全力を出し切ろうと思う】の順に変化していた。それぞれの思いについて考察する。

1）安産になるように自分ができることを取り入れようと思う

安産になるように自分ができることを取り入れようという思いは妊娠期からみられ、出産が開始となっても、しばらくの間、継続していた。初産婦は、痛みのある状況において、「ご飯を食べる余裕はない」、「どちらかと言うと入りたくない」などと感じながらも、「安産になるのであれば」、「少しでも良い方向にいくのであれば」などと考え、助産師の勧める順調な出産経過のための行動を取り入れていた。病院や診療所で出産した女性を対象とした調査で、荻田

ら[28]は、出産に対するイメージや具体的な希望が明確化していない場合でも、助産師や看護師のケアにより、順調な経過に向けた対処行動を産婦自ら実行できることを述べている。本研究においても、助産師から食事や入浴などを勧められており、初産婦は自分のできる範囲で取り入れていた。安産のために何かしたいという思いがあったからこそ、助産師の関わりが初産婦の行動のきっかけになったと考えられる。

２）出産に対する前向きな気持ちを保とうとする

出産の痛みが強くなると、「これがまだまだ続くの？」という語りのように、初産婦は妊娠中に自身がイメージしていた出産と実際の痛みや経過が違うと感じていた。分娩室に移動するまでの時期は、痛みや努責感を強く感じる時期であり、初産婦の多くは、「出産の終わりが見えない」、「いつ終わるのかわからない」などのように、出産の終わりがみえないことで気持ちが後ろ向きになっていた。常盤ら[29]は、出産時の分娩経過に関する不安として、分娩開始の不安、正常な経過で分娩が終了するかという不安、分娩所要時間に関する不安、経腟の可否に関する不安の４つを挙げている。本研究においては、特に痛みを強く感じる時期に、初産婦は出産経過に関する不安を感じ、気持ちが後ろ向きになったり自分の限界を感じていたりしていたと考えられる。初産婦が出産に対する前向きな気持ちを維持できるように、現在の出産経過や今後どのように進行するかの見通しの説明などが重要になると示唆される。

痛みや不安を強く感じる状況の中で、初産婦は「３回で終わりと思いながら叫んでいた」、「大丈夫だろうと言い聞かせた」など、様々な方法で出産に対する前向きな気持ちを保とうとしていた。先行研究では、出産に対する自己効力感の一つとして、出産中に落ち着いたりリラックスしたりするために「自分はできると言い聞かせる」という、自分への励ましがあることが報告されている[30]。本研究においても、産婦自身が自分を励ますことなどによって自己効力感を高め、出産に対する肯定的な気持ちを保とうとしていたと考えられる。また、多くの初産婦は、「赤ちゃんも頑張ってるし、頑張らないと」など、おなかの中の赤ちゃんの頑張りを感じることで前向きな気持ちを高めていた。病院での出産を対象とした國清ら[23]は、産婦が、出産を産婦自身の生み出す力だけでなく、子どもの生まれる出る力を合わせて乗り越える共同作業と捉えていたことを報告している。本研究においても、初産婦が出産を子どもとの共同作業と捉えていたため、強い痛みや不安を感じる中でも子どもの様子を想像したり頑張りを感じたりしていたのではないかと思われる。更に、「（実母が）いてくれてるだけで安心してた」や「（助産師が）すごい励ましてくださって」という語りのように、家族や助産師などの存在によって安心したり励まされたりしたという初産婦もいた。先行研究においても、家族や助産師によって支えられたり励まされたりしたという報告は多くみられ[19, 20, 23, 28, 29]、出産において重要な存在であると言える。特に痛みや不安の強い時期においては、家族や助産師が可能な限り初産婦

に付き添えるよう、出産中の環境を整えることが大切だと示唆される。

3）出産の終わりが見えて全力を出し切ろうと思う

分娩室への移動やいきめるようになることで、多くの初産婦が「どんどん下がひらいていってるのが感覚でわかった」などという赤ちゃんが下降してくる感覚や、「頭出てきてるんやなって。広がってるってのがわかった。」などといった排臨の状態を感じていた。更に、これらの感覚の変化により、「これ絶対産める」、「あともうちょっとやって自分でも思えた」というように、初産婦は出産の終わりを予測し、出産の終わりが見えて全力を出し切ろうと感じていた。助産院での出産を対象とした先行研究においても、産婦が子どもの下降を娩出の近づいている兆候として受け止めていたことが報告されている[18]。出産場所や初経産に関係なく、子どもが産道を下降してくる感覚などを感じることによって、産婦は出産の終わりが近いことを感じ、より主体的に出産に取り組むことができるのではないかと考える。 また、「おなかから（赤ちゃんが）出ていく感覚がわかって。」という語りのように、子どもの生まれる瞬間を感じる初産婦も多くみられた。先行研究においても産婦の胎児娩出感については報告されており、胎児娩出感を持つことで、子どもを産んだ実感や出産の達成感、充実感を得ることが述べられている[22]。

2．看護実践への示唆

出産経過の中で、出産に取り組もうとする思いは、様々な体験により影響を受け変化していたが、初産婦は出産に取り組もうとする前向きな思いを持ち続けていた。助産師は、適宜、初産婦の出産に取り組もうとする思いやその思いに影響を及ぼす体験についてアセスメントし、分娩期において初産婦が前向きな思いを持ち続けられるよう関わることが重要だと示唆される。出産経過に沿って看護実践への示唆を記述する。

妊娠期においては、安産のためにできることを取り入れようという初産婦の思いを踏まえた上で、出産のために妊娠中から行うと良いことや、出産中に行うと良いことを具体的にイメージできるように伝えることが大切である。分娩が開始となっても、経過がまだ緩やかな時期には、できることを取り入れようという思いが継続しているため、出産経過の説明や順調な経過に向けた行動の提案などが重要になると考える。出産が進行すると、出産前のイメージと実際の痛みや経過に違いを感じたり、出産の終わりがみえず限界を感じたりする可能性を考慮した上で、初産婦が出産に対する前向きな気持ちを保てるように、現在の出産経過や今後の見通しの説明、子どもの様子などを伝えることが必要だと示唆される。また、特に痛みや不安の強い時期においては、可能な限り家族や助産師が初産婦に付き添えるよう、出産中の環境を整えることも大切である。更に、初産婦自身が感覚の変化から出産の進行を感じたり出産の終わりを

予測したりして全力を出し切ろうと思えるように、子どもが下降してくる感覚や排臨の状態などを感じられるような援助が重要だと示唆される。

３．研究の限界と今後の課題

本研究の協力者は、２施設で経腟自然分娩した初産婦10名であり、結果の一般化は難しいと考える。今後、研究協力者を増やして分析を行う必要がある。

Ⅵ　結論

初産婦の出産に取り組もうとする思いとしては３つのカテゴリーが抽出され、出産経過の中で【安産になるように自分ができることを取り入れようと思う】、【出産に対する前向きな気持ちを保とうとする】、【出産の終わりが見えて全力を出し切ろうと思う】の順に変化していた。

また、出産に取り組もうとする思いに影響を及ぼす体験としては、【徐々に強くなる痛みの変化を感じる】、【自分のイメージと違うと感じる】、【出産の終わりが見えず自分の限界を感じる】、【周囲の人に支えられていると感じる】、【おなかの中の赤ちゃんの頑張りを感じる】、【環境の変化によって出産の進行を感じる】、【赤ちゃんが生まれてくる感覚を感じる】の７つのカテゴリーが抽出された。

出産に取り組もうとする思いは様々な体験によって影響を受け変化していたが、出産経過の中で初産婦は前向きな思いを持ち続けていた。助産師は、適宜、初産婦の出産に取り組もうとする思いや思いに影響を及ぼす体験についてアセスメントし、分娩期において初産婦が前向きな思いを持ち続けられるよう関わることが重要だと示唆される。

付記：本研究は福井県立大学看護福祉学研究科に提出した修士論文を加筆・修正したものである。

謝辞：本研究を取り組むにあたり、研究にご協力いただいた初産婦の皆様、研究にご協力いただいた産科病院と診療所の院長並びに職員の皆様に深く感謝申し上げます。また、研究の全過程においてご指導いただいた大川洋子先生に心より感謝申し上げます。

引用文献

１）公益財団法人母子衛生研究会 : 母子保健の主なる統計 , 47, 母子保健事業団 , 2013.
２）松島京 : 出産の医療化と「いいお産」－個別化される出産体験と身体の社会的統制－ , 立命館人間科学研究 , 11, 147-159, 2006.
３）「健やか親子 21」（第２次）ホームページ , http://sukoyaka21.jp/（H27.12.24）
４）Mercer R: Relationship of Birth Experience to Later Mothering Behaviors, Journal of Nurse-Midwifery, 30, 204-211, 1985.

5）松島京 : 親になることと妊娠・出産のケア－地域医療と子育て支援の連携の可能性－ , 立命館産業社会論集 , 39（2), 19-33, 2003.
6）清水志津佳 , 遠藤俊子 : 出産経験満足度及び自尊感情の変化とマタニティ・ブルーズ , 産褥うつとの関連 , 山梨県母性衛生学会誌 , 4, 42-48, 2005.
7）由井千鶴 , 鈴木理保子 , 坂口けさみ他 : 母親の出産満足度に影響する要因と育児生活肯定感および自尊感情との関連 , 長野県母子衛生学会誌 , 11, 9-16, 2009.
8）有本梨花 , 島田三恵子 : 出産の満足度と母親の児に対する愛着との関連 , 小児保健研究 , 4（6), 749-755, 2010.
9）岡田真奈 , 三宅由貴 , 市岡美奈子他 : 初産婦・経産婦における母親役割・分娩準備行動と出産満足度および育児肯定感との関連性 , 滋賀母性衛生学会誌 , 13, 17-22, 2013.
10）関塚真美 : 出産の満足度と出産後ストレス反応の関連 , 日本助産学会誌 , 19（2), 19 － 27, 2005.
11）関塚真美 , 坂井明美 , 島田恵子他 : 妊娠末期におけるストレス対処能力と出産満足度 , 産後うつ傾向の関連 , 母性衛生 , 48（1), 106-113, 2007.
12）佐藤ゆき , 加藤忠明 , 伊藤龍子他 : 出産満足度と育児中の母親の不安抑うつとの関連 , 小児保健研究 , 67（2), 341-348, 2008.
13）志村千鶴子 : 妊産婦の出産体験の満足感に関連する要因の検討 , 日本ウーマンズヘルス学会誌 , 9, 23-32, 2010.
14）佐藤彰子 , 梅野貴恵 : 褥婦のバースプランの認識と出産満足度との関連に関する研究 , 日本助産学会誌 , 25（1), 27-35, 2011.
15）Green JM& Baston HA: Feeling in Control During Labor: Concepts, Correlates, and Consequences, Birth, 30（4), 235–247, 2003.
16）Goodman P, Mackey MC, Tavakoli AS: Factors Related to Childbirth Satisfaction, Journal of Advanced Nursing, 46（2), 212–219, 2004.
17）中重喜代子 , 大河原シゲ子 , 平山操他 : 分娩満足感に影響を及ぼす因子の検討 , 東京女子医看護短期大学研究紀要 , 12, 37-45, 1990.
18）村上明美 : 姿勢の選択に関する産婦の身体的な自覚 , 日本助産学会誌 , 15（2), 22-29, 2002.
19）野口真貴子 : 女性に肯定される助産所出産体験と知覚知 , 日本助産学学会誌 , 15（2), 7-14, 2002.
20）長谷川文 , 村上明美 : 出産する女性が満足できるお産―助産院の出産ノートからの分析―, 母性衛生 , 45（4), 489-795, 2005.
21）村上明美 : 自己の出産に十分に満足していると評価した女性が出産の際に抱いた思い , 日本赤十字看護大学紀要 , 15, 23-33, 2001.
22）堀田久美 : 胎児娩出感を持った女性の分娩体験 , 日本助産学会誌 , 17（1), 15-24, 2003.
23）國清恭子 , 齋藤やよい : コントロール感覚からみた産褥早期の母親の出産体験の分析 , 日本看護研究学会雑誌 , 30, 67-77, 2007.
24）Ford E, Ayers S, Wright DB: Measurement of Maternal Perceptions of Support and Control in Birth（SCIB), Women’s health, 18（2), 245-252, 2009.
25）Namey EE & Lyerly AD: The Meaning of “Control” for Childbearing Women in the US, Social Science & Medicine, 71（4), 769-776, 2010.
26）恵美須文枝 : 経産婦の出産体験について ,―特に過去の出産が影響している体験の内容―, 日本助産学会誌 , 4（1), 27-33, 1990.
27）Polit DF and Beck CT / 近藤潤子 : 質的研究のデザインと方法 , 看護研究 原理と方法 , 第２版 , 250-279, 医学書院 , 2009.
28）荻田珠江 , 正岡経子 : 病院・診療所における産婦の主体的な出産につながった分娩期ケア . 日本ウーマ

ンズヘルス学会誌 , 12（1), 57-64, 2013.
29）常盤洋子 , 杉原一昭 : 出産体験と理想とするお産についての内容分析 , 群馬保健学紀要 20, 81-88, 1999.
30）Salomonsson B, Bertrö C, Alehagen S: Self-efficacy in Pregnant Women with Severe Fear of Childbirth. Journal of Obstetric, Gynecologic & Neonatal Nursing, 42（2), 191-202, 2013.